***●C-weekマルチイベント③***

***●国際機関で働くおもしろさとやりがい***

***事前のご案内とアンケート（5/28）***

**48名の2年生が集まりました。人気のイベントです。ぜひ、このイベントを成功させましょう。**

このイベントのために、森田宏子さんと事前に打ち合わせをしました。

「アメリカ帰国の森田宏子さんは、中1から高校卒業までNYの郊外ですごした後、ICUに入学。当時、帰国子女枠をもうけていたのはICUくらいしかなく、9月入学でお入りになりました。

大学卒業後、デンバーの大学院で国際関係を学び、夏休み中に国連でインターンシップを経験されました。JPOでハイチに2年間、その後NYの国連で、開発のための科学技術センター勤務、持続可能な開発部局、さらに小島嶼国（島国の独立国）の担当をされました。

いちばんおもしろかったのは、大きな首脳レベルの国際会議を3回、事務局チームの一員として、特に4年前のサモアの会議では、チームの中枢で、政府間交渉のサポートからイベントや展示会の企画などに関わったこと。

ICUでは、異文化間コミュニケーションを学んだが、国連はそれとまったく同じ。世界各地からの同僚と働き、外交官などと接する中で言葉以上の、仕事に対する感覚や『常識』の違いに驚く日々でした。いちど開発問題に関わると、自分の手がけたプロジェクトを通じ、途上国で少しでも成果が出るととてもうれしい気持ちになったことを覚えています、と語ります。」　　　　　　　　　　　　　**（中嶌まとめ）**

●当日は、**森田さんのように国連職員を経験された方を4名、お迎えします。（裏面でご紹介します）**

Q１：あなたはどんな理由でこのイベントを選びましたか？

Q２：あなたが聞いてみたい質問を、3つあげてください。

Q３：あなたはこのイベントを通して何を知りたい／得たいと考えていますか？

**〔書ききれないときは、裏面の余白へ!〕**

**●事前に講師の方にお届けします。当日のパネルディスカッションの軸になりますので、なるべく詳しく書いてください。職員室カウンターに提出箱を設置します。３０日（水）までに提出してください。**

**●当日のパネルディスカッションの司会（2～3名）を募集します。原教頭または信田先生（理科）まで。**

**【6月6日(水)　】**

●山本 和さまお話し

●パネリスト自己紹介

●パネルディスカッション

●まとめとふりかえり

当日お迎えするゲストの皆さまです。ICU/大学院の卒業生です。

元国連職員の会（AFICS）の活動の一環として参加してくださいます。

■山本 さま

学習院高等科からICUへ進み、卒業後に日本銀行入行。フルブライト留学により、Columbia Universityで経済学MAを取得。日本銀行に戻り、1974年から 国際通貨基金（IMF）アジア局エコノミスト、日本銀行ニューヨーク事務所次長を経て、1988年から国際連合児童基金（UNICEF）財務局長（Comptroller）をつとめる。帰国後1993年より 国際基督教大学教授、学校法人国際基督教大学理事を歴任。

■森田　宏子さま

国際基督教大学で異文化間コミュニケーション学び、その後、デンバー大学にて国際関係学修士号を取得。1979年に、国連開発計画（UNDP）ハイチ事務所でJPOとして国連職員のキャリアをスタートさせる。その後、開発のための国連科学技術センター(UNCSTD) で10年間勤務。1993年に国連経済社会局・持続可能な開発部へ移り、情報分析課・課長、学術誌National Resources Forumの編集長、地球サミット＋5、ヨハネスブルグ・サミット、リオ＋20に事務局の一部として関わる。2009年より国連事務局経済社会局（UNDESA）小島嶼国課課長をつとめる。

■高瀬 千賀子さま

学習院女子部高等科からUnited World College of South East Asia（シンガポール）へ進み、ICU卒。英国サセックス大学大学院にて開発経済学修士号を取得。1983年から国連工業開発機関（ジャカルタ）アソシエートエキスパート、翌年より国連事務局に勤務。国際経済社会局開発研究・政策分析部では中期予測を担当、マクロ経済・社会政策分析部では基幹出版物World Economic Surveyの執筆に携わる。その後、政策調整・持続可能な開発局持続可能な開発部に移り、主に消費・生産の持続可能な行動への移行を担当する。この間、生物多様性条約事務局に約3年間勤務。国連に戻り、2002年にヨハネスブルグ（南アフリカ共和国）で行われたWorld Summit on Sustainable Developmentの準備および開催に携わる。UNCRD所長就任前は、国連経済社会局経済社会理事会支援・調整部において政策調整課副課長（政策分析担当）として主に経済社会理事会の運営に携わる。2011年3月より所長代行、2012年より2017年まで国際連合地域開発センターUNCRD所長をつとめる。

■山崎 節子さま

昭和女子大学付属高校、青山学院大学からOccidental College（米国）に留学、ICU大学院行政学修士取得。外銀勤務後、国連開発計画（UNDP）フィリピン事務所に赴任以来、UNDPニューヨーク本部財務部部長室付補佐官、UNDP中国事務所代表補、国連ボランティア計画（UNV）ボン本部地域課長を経て、UNDPラオス事務所副代表、UNDPベトナム事務所長、UNDPカンボジア事務所長を務める。国際機関事務所運営、開発援助変革と組織改革を指揮。ベトナムでは国連改革パイロットに参画。現在京都大学大学院総合生存学館特任教授。